

2980

65

七
金

1795

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

一、金

年次	十三年	十四年	十五年	十六年
生産量	五、一九四八疋	七、五八〇〇	一〇、〇〇〇〇	一、三〇〇〇〇
金額	二〇、〇〇〇〇千円	二九、一八三〇	三、八三〇〇〇	五、〇〇〇〇〇

(一瓦一四八五錢)

本年度産金量ニ関シテハ、上半期相當悲觀スヘキ状態ナリシモ、下期ハヤヤ好調ナルモノノ如シ。然シテカラ、設備資材ノ供給、労働力ノ充足ハ依然豫定通り行ハレス、コノ儘ニ推移スルトキハ由々シキ問題ナリ。サレハ之ニ関シテハ商工省モ極力打開ニ努メ、ステニ若干鑛山ニ鑿岩機其他ノ貸付ヲ行ヒ、鑛山機製作會社ニ對シテハ相當多額ノ注文ヲ發シ、ソノ納入方ヲ促進シツツアリ。一方産金業者ニ對シテハ個々ニ二割以上ノ増産計畫ヲ提出セシメ、ソレニ基キテ強行的増産ヲ企圖シツツアリシカ、本年十月七日ノ第二回金増産協議會ニ於テハコノ今後新ニ実施セントスル特別産金計畫遂行ノタメニ金増産ニ必要ナ

ル設備資材ハ軍需品ニ準シテ優先的配給ノ方法ヲ講シ、又ソノ輸入ヲモ容認、更ニゴム、ガソリンノ配給、土肥、繩地金山ニ對スル配船、厚生省ヲ通シテ必要ナル労働力ノ補給ヲナスコトニ決定セリト傳ヘラル。大藏省ハ大阪造幣局及ヒ東京支所ノ精製設備ヲ擴張シ、鉄道省ハ現行鑛石運賃（半額）ヲ更ニ三分ノ一程度ニ引下ケテ考究中ト言ハル。金ノ増産ハ今日是非トモ強行セラレサルヘカラス。尙從來大産金業者ノ中ニハ採算圖ニアル貧鑛ヲ採掘シテ富鑛ヲ保留スル傾キアリト傳ヘラレ居ルカ、之ハ經營ヲ永ク持續センカタメノ資源愛護ノ點ヨリミレハ敢テ咎ムヘキニハ非ルモ、今日ノ事態ニ於テハムシ口進ンテ富鑛ノ拔キ掘リヲモ行フヘキモノト思料ス。

前掲生産高推定表ニ於テハ、十四年以降ハ本年ニ比ヘテ飛躍的増産ヲ計上セルモ、ソノ對策ニシテ宜シキヲ得ハ決シテ不可能事ニ非ス、且又アラユル方法ヲ講シテモ必ス実行セラルヘキモノト思料ス。

企 業 計 案
 (一) 内外地金増産計畫

(單位 厩)

年 度	生 産 量	對前年増加量
昭和十二年度	五六一四六	
十三 "	七二八二七	二〇六八一
十四 "	九一九〇九	二〇〇八二
十五 "	一〇六五三四	一四六二五
十六 "	一二〇八二一	一四二八七
昭和十三—十六年度増産計畫		六九六七五

(二) 年度別所要資金

(單位 千円)

年 度	固定資金 (内設備費)	運轉資金	計
昭和十三年度	四九五二二 (三四六六五)	一七〇九一	六六六一三
十四 "	五六二二九 (三六三六〇)	一九三二七	七五五五六

註、日本鑛業會誌十三年五月号所載、利根川金之助氏「金増産ノ研究」ニヨツテ算出、尙右ノ製鍊設備ハ「濕式製鍊ノ場合ナレトモ、乾式

鑽石品位	年産六九七五兩ニ對スル一日ノ製鍊鑛量	製鍊設備費	採鑛設備其他	計
百万分ノ三	八三六一〇兩	二二六四四四千元	一一二九六四千元	三三九四〇八千元
〃 五	五四三四七	一三三八六六	六七九三三	二〇三七九九
〃 七	三四八三八	八七〇九四	四三五四七	一三〇六四一

(三) 所要固定資金
 今右ノ固定資金ヲ検討センニ、例ヘハ利根川金之助氏ニヨレハ次ノ如キ数字ヲ得。

合 計	十五年度	十六〃
一五六五九八(二〇九六一八)	五〇八四七(三三、五九三)	一四〇八八
六四二五八	一三、七五二	一三、七五二
二二〇八五六	六四、九三五	

ナレハ此レ以上ノ設備費ヲ必要トスル。(一三三五頁)
 之ヨリ金年産一應當リノ所要固定資金ヲ計算スルニ次表ノ如クナル。

一 生産力擴充計畫分 利根川 品位百万分ノ三 氏ヨリ " " 五 算出 " " 七	二二四八千円 四八七五 二九二五 一八七五
三 東洋經濟新報昭十二・八・十四日号 他	余程内輪ニミテモ 六〇〇〇一七〇〇〇 五〇〇〇

即チ本増産計畫ノ應當リ固定資金ハ利根川氏ノ方法ニヨル品位百万分ノ七ノ鑽石處理所要固定資金ニ近似ス。ナルホト現在ノ金鑽平均稼行品位ハ百万分ノ六乃至七見當ニテ、本計畫ノ所期スルトコロモソノ程度ナランカ。然シナカラ本計畫ノ如キ大增産ヲ行ハントスレハ、採掘サルル金鑽ノ量ハ甚タ大量ニ上リ、ソノ結果鑽石ノ品位ハ低下シ、現在ノ如キ品位ノモノヲ望ムコトハ不可能トナリ、結局三瓦ノ應見當

年 季	鑛 量 (噸)	金品位瓦 / 噸
昭和二年上	三六九一四	一三・五〇
二年下	三九四五八	一四・二二

◎最近十年間三井串木野鑛山處理鑛量及品位

ノ鑛石ニヨラサルヘカラス。
 註、現在ハ百万分ノ四ノ鑛石モ普通ニハ好條件ノ場合ニノミ引合ヒ
 二乃至三ノ低品位鑛石ハ未タ採算圍ニ入ラス。但シ大規模ノ自家
 製鍊ニ於テハ採算可能ナリトモ云フ。例ヘハ「佐渡鑛山ノ如キハ
 採鑛費モ非常ニ安ク一円以下テ足り、製鍊技術ト設備トニ恵マレ
 テキルノテ、百万分ノ二ノ貧鑛テモ充分利益ヲ上ケルコトカ出來
 ルノテアル。」(山本勇三氏「産金」一六六頁)
 處理鑛量ノ増加ニ伴フ鑛石ノ品位ノ低下ニツイテハ次表參照。
 「コレハ總テノ鑛山ニ共通ノ現象テアルカラ、參考ノタメニ示サ
 ウ」(前掲「産金」一九四頁)

十年上	九年下	九年上	八年下	八年上	七年下	七年上	六年下	六年上	五年下	五年上	四年下	四年上	三年下	三年上
六二七八二	六一九八一	六一八一八	五九四八三	四八六七五	四四三九一	四三四九九	四二一三二	四一三九一	三九九四九	三九四九八	三九一五五	三九三〇五	三六三八〇	三八四四一
八・三一	八・七〇	九・〇五	九・八三	一一・〇四	一一・八五	一二・〇四	一二・三九	一二・七三	一二・九一	一一・九七	一二・一九	一二・五六	一一・〇一	一一・〇〇

十年下	六三三二〇	八・〇九
十一年上	六三八四一	七・一四
十一年下	八六〇〇〇	六・一一

カクテ本計畫ノ固定資金一五七百万円ハ少キニ過クルモノト云ハサルヘカラス。從ツテ本計畫ヲ遂行センカタメニハ

(一) 百万分ノ三程度ノ低品位鑽石處理

(二) 産金一應當リ約五百万円、増産量六九・六七五噸ニ對シ總額約三四

八百万円(十三―十五年度毎年約一一六百万円)ノ固定資金

カ必要ニテ、之ニ對スル適當ナル施設

(一) 經營ニ於ケル相當程度ノ損失ニ對スル補償(註一)

(二) 産金業ニ必要ナル資材ノ優先的供給

(三) 業者ニ對スル充分ナル監督ト援助等々

ヲナササルヘカラス。(註二)

(註一) 品位百万分ノ三ノ鑽石處理ノ場合ノ收支計算ヲミルニ次ノ如

収入		支出		差引
実収率	七五%	精鑛仕上り経費	一〇・〇〇	
採金高	二・二五	製鍊費	三・五〇	
一瓦單價	三・八五	運賃諸経費	八・〇〇	
八・六六		一八・五〇		

(2) 山本勇三氏「産金」ニヨリ算出
 (1) 賣鑛製鍊ノ場合

生産量	収入	支出	差引
一瓦	三・八五	三・八六一	〇・〇一
一匁	一四・四四	一四・五一	〇・〇七
		一四・八四	〇・〇一
			〇・〇三

(1) 東洋經濟昭十三・五・七日号

(口) 自家製錬ノ場合

收	入	支	出	差
実收率	九〇%	精鑛仕上り經費	一〇・〇〇	(-) 二・六〇
採金高	二・七〇	製錬費	三・〇〇	
一瓦單價	三・八五			
一〇・四〇			一三・〇〇	

(8) 利根川金之助氏

收	入	支	出	差
一瓦	三・八五		五・二〇	(-) 一・三五

「採鑛製錬其他一切ノ經費ハ鑛山ニヨリテ相違スレトモ、物價高ノ
 昨今先ツ鑛石一匁當リ一四円位ト見ルヲ妥當トスル。然ルトキハ金
 一瓦ノ生産費ハ五円二〇錢トナル。」

上掲ノ三例ハ何レモ現在ノ金買上價格一瓦三円八五錢ニ對シテ最低一錢ヨリ最高九円八四錢ノ缺損トナル。之ニ對シテハ相當ノ補償必要ナリ。(尙ホ産金買上値一瓦三円八五錢引上ケノ問題ニ關シテハ、十三・九・廿四日附各紙ハ先般來ノロンドン、ニユウヨークニ於ケル金塊市價ノ値上リニ對シテモ大藏省ノ値上ノ意向ナキ旨ノ言明ヲ掲載シ居レリ。)

(註)ニ金増産促進ニ關スル民間ノ諸案

(1) 日本鑛業會

- イ、鑛業用機械・運搬機動力機ノ供給ヲ迅速ニ増加スルコト
- ロ、休眠鑛山開發ノ爲企業費ヲ補助スルコト
- ハ、稼行中ノ鑛山ニ對シ補助金ヲ與フルコト(今後ノ増産分ニ對シ)
- ニ、砂金採收事業ノ獎勵
- ホ、官民協同ノ調査機關設置
- ヘ、火藥取扱業及火藥庫ニ關スル便法施行

ト、鉄道運賃ノ減額

チ、ガソリン及トラツクノ供給

リ、木綿、皮革、ゴム製品ノ配給制限緩和

ヌ、鑛山特殊技術者ノ召集緩和

(2) 利根川金之助氏

イ、向フ五年間毎年設備費ノ半額補助

ロ、生産費低下ノタメノ補助、例へハ探鑛費補助金額ノ増額等

ハ、或ハ鑛石品位ノ採算點ナル四・五瓦以下ノ低品位鑛ハ民間

ヨリ引上ケ特殊會社ニテ處理スルコト

「以上ノ方法ヲ実行スル事ニ依テ、一年一三五噸ノ産金ハ可能テ
アル。」

(3) 山本勇三氏

「商工省ノ五ヶ年計畫ハ、深キ研究準備ナシニ出來タ所謂根

底ノナイ一夜漬ノ案テアリ、實際ニトシナ仕事カ出來ルカ。

四百万円ノ補助金ヲ出ス以外ニハ何モ出來ナイノテハナイカ。

- 懸念ニ耐エヌ。、、、、業者モナルヘク我儘ヲ言ハス、國家ノ統制ニ服シ、進ンテ國策ヲ奉シテ頂キ度イ。」
2. 鑛山經營並ニ技術ニ對スル國家ノ充分ナル指導ニヨル中小鑛山ノ助成。(但シ「現状テハ及ヒモツカナイ。」)
3. 計畫ノ遂行ニ必要ナル巨額ノ資金ノ金融上適切ナル施設ノ實行。
4. 「産金買入價格ヲモウ少シ引上ケルコトハ此際考慮スヘキテハナカラウカ。、、、、何ト言ツテモ、地中カラ掘リ出スコトカ此際最モ大切テアル。貧鑛テモ富鑛テモ採算カ取レル様ニ考ヘテヤラネハナラヌ。」
5. 朝鮮ノ金鑛増産ニ對スル乾式製鍊所ノ能力増加。(コノ設備ノ充分ナル活用ノタメ外國ノ銅鑛ヲ輸入製鍊スルコト)内地金鑛ノ濕式製鍊ノ勵行。
6. 技術上ノ改善